

① 朝食摂取

		令和3（2021）年度	令和4（2022）年度	令和5（2023）年度	令和6（2024）年度	令和7（2025）年度
朝食を欠食する人	4・5歳児	—	—	—	7.9%	目標値：0%
	小学6年生	4.6%	2.0%	4.6%		2%
	中学3年生	5.2%	5.9%	7.9%		3%
	16～19歳	—	—	—	10.3%	5%
	20～30歳代	26.2%	17.2%	18.0%	26.7%	9%以下
取組		④出産前のパパママセミナーでコンビニ食リーフレット、簡単レシピを配付				
		⑦母子健康手帳交付時の健康相談でコンビニ食リーフレットを配付 すくすくネットに妊娠期の食生活について掲載				
		①学童期・思春期からの健康づくり啓発事業を実施 ・小中学校での学校保健委員会等で出前講座を実施	・特定健診結果の状況を情報提供		・高校での栄養講話	
		②「かしわざきの食育5か条」PRとして「かしわざきの食育5か条のうた」CDを市内保育園に配布 を市ホームページ等に掲載、FMピッカラで紹介				
		⑧歯の健康展 ・「我が家の朝ごはん」お絵描きで保護者に啓発				
	妊娠期	③からだスッカリ講座（企業向け出前講座）、新入社員健康教育を実施				
	学童期		⑤市職員向け朝食に関するアンケート調査を実施	⑤-2朝食摂取リーフレットの完成・配布 ・秋の収穫祭 ・コミセン祭り ・市内大学新入生歓迎会 ・成人のつどい ・出産前のパパママセミナー		
青壮年期	⑥図書館に特設コーナーを設置 6月の「食育月間」に合わせて朝食摂取の啓発、簡単レシピの紹介 広報かしわざき、市ホームページでの啓発 ・簡単時短レシピの紹介 ・「朝食で新生活をHAPPYに」「朝こそ、たんぱく質を取ろう」を掲載					
情報提供						
実施状況 課題等	①これまで関わりが少なかった学校と連携した取組を検討。朝食をテーマに肥満予防も絡めた食習慣の重要性を啓発する事業を開始した。 ②「食育5か条のうた」を通して、望ましい食生活の啓発を行った。 ③朝食欠食の割合の高い、働き世代を対象とした講座を行った。	④妊娠前から朝食欠食の習慣があった妊婦が多いことから、手軽に活用できる資料を配付した。 ⑤より効果的な啓発に向けて、朝食を食べない理由の実態把握を行った。欠食が始まるきっかけは、進学や就職で一人暮らしになってからが多い傾向であった。 ⑥簡単レシピの紹介もあわせ、朝食摂取を広く周知した。	⑦出産前のパパママセミナーの参加者数が減少していることもあり、母子健康手帳交付時に資料を配付した。また、すくすくネットにセミナーで配布している資料を掲載した。 ⑧子どものお絵描きを通して、保護者へ啓発した。 ①出前講座については依頼がなく、実施しなかったが、学校栄養士へ市特定健診結果の状況を情報提供した。啓発事業の実施内容について、学校や関係課と検討していく必要がある。 ⑤-2リーフレットを作成し、イベントで配布した。朝食を摂取することのメリットだけでなく、今後はデメリットも周知する必要がある。広報かしわざきに欠食による肥満や血糖値上昇への影響について掲載した。	⑦すくすくネットへ乳幼児期の食生活について記事を掲載していく。 ①、⑤-2高校生や大学生等、若い世代を対象に啓発を行う。 ★4・5歳児、15～84歳の市民を対象にアンケートを実施した。朝食摂取状況等について結果を分析する。	令和7(2025)年度の方向性 ・高校での栄養講話について周知し、実施校を増やしていく。 ・大学生や新成人等、青年期への啓発を継続する。	
		★庁内食育推進連絡会議 ・市民アンケート結果を共有する。 ・各世代の朝食摂取啓発の取組について、庁内関係課と検討する。				

②肥満予防

		令和3（2021）年度	令和4（2022）年度	令和5（2023）年度	令和6（2024）年度	令和7（2025）年度	
適正体重の人	小学6年生の肥満	10.89%	12.36%	12.13%		目標値：7%	
	中学3年生の肥満	8.93%	9.43%	9.36%		5%	
	20～30歳代女性のやせ	16.3%	19.0%	19.2%		20%以下	
	40歳代男性の肥満	31.3%	38.8%	35.6%		28%以下	
取組	⑥出産前のパママセミナーのテキストを改訂し、出産までの適切な体重増加の目安、低体重・過体重のデメリットを記載						
					⑦乳幼児健診、小児肥満等発育調査 ・幼児肥満の状況分析 ・乳幼児健診での肥満傾向児に対する働きかけの検討		
					⑧1.6歳児健診・3歳児健診で肥満傾向児への保健指導を実施		
	①甘味飲料講座を保育園（年中・年長児）、市民プラザ（小学生親子）で実施				・児童クラブで実施（小学生）		
	妊娠期	②学童期・思春期からの健康づくり啓発事業を実施 ・小中学校での学校保健委員会等で出前講座を実施			・特定健診結果の状況を情報提供	・高校での栄養講話	
	幼児期	③小児生活習慣病予防検診で保健指導を実施					
学童期							
青壮年期	④からだスッキリ講座・実践編として肥満改善をテーマに実施し、新入社員健康教育では適正体重を啓発						
情報提供	⑤広報かしわざき、市ホームページへ掲載 ・「自分の適正体重を知ろう」 ・「食べ方を変えれば、体が変わる！～若い頃から肥満を予防」						
実施状況課題等	①園児や小学生親子を対象に、むし歯予防とあわせて肥満予防について啓発した。	⑥妊娠前にやせ及び肥満だった妊婦がそれぞれ1割以上いることから、出産までの適切な体重増加の大切さについて啓発した。	⑦3歳児健診で、肥満傾向になる割合が多く、小児肥満等発育調査では、3歳児の肥満者割合が年々増加していた。就園前の働きかけについて、関係課と検討した。	⑧1.6歳児健診、3歳児健診において肥満度+20%以上（+15～19%は希望者）に対して保健指導を行った。3か月後に体格と生活の改善状況を確認し、継続支援を行った。	令和7(2025)年度の方向性 ・1.6歳児健診、3歳児健診での保健指導、児童クラブでの甘味飲料講座を継続する。令和6年度の実施状況を分析し、幼児期・学童期の肥満予防について庁内関係課と情報共有、取組の連携を図る。		
	②子どもの肥満はデリケートな問題で介入がしにくく、小中学生はやせ志向の児童生徒も多いため、適正体重の視点での啓発が必要である。		④事業所向けの啓発は、朝食摂取が生活リズムを整え、肥満予防につながることを前面に出すことが大事であることから、朝食を切り口にした肥満予防の啓発や職場環境に合わせた食事方法等の提案を行った。	①夏休み期間中に児童クラブの小学生を対象に甘味飲料講座を実施し、むし歯予防と肥満予防の啓発を行った。	②高校生を対象に朝食摂取を切り口に肥満予防も絡めて啓発を行う。		
	③検診受診率、結果説明会参加率が低いことから、検診時に保健指導を実施し、生活改善を支援した。						
	④働き世代の男性の肥満者割合が増加しており、企業での肥満改善の継続支援や新入社員対象に啓発を行った。						
	⑤適正体重の大切さを広く周知した。						

重点課題の取組を推進するため、皆様からのご意見をお聞かせください。

（皆様の組織・団体や個人の立場でできること など）